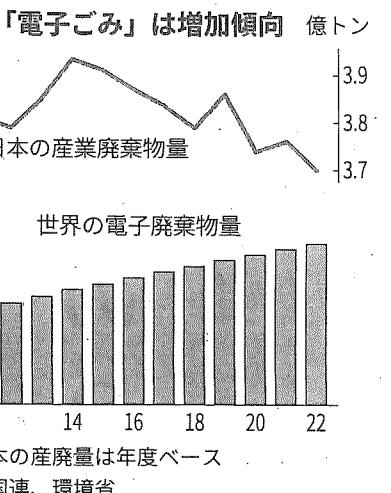
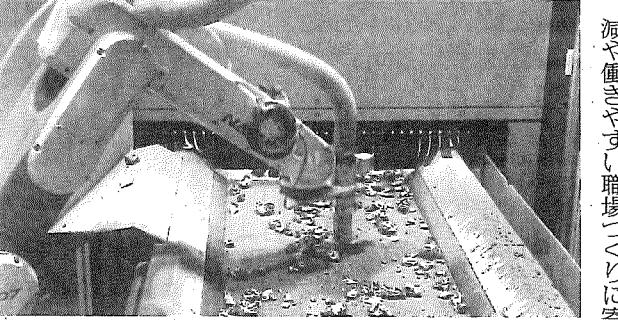


産廃分別ロボにお任せ



近畿工業や日本磁力選鉱



ソニーグループ系のリサイクル工場で稼働する近畿工業のA-Iロボット(名古屋市)

産業廃棄物の選別作業で人工知能(A-I)が活躍し始めた。テレビなどの電化製品で使われる金属を種類別に分けて回収する作業は高い集中力が求められ、難易度が高い。近畿工業(神戸市)や日本磁力選鉱(北九州市)の設備は一部の過酷な工程を無人化し、導入企業のコスト削減や働きやすい職場づくりに寄与する。

掛けた近畿工業は破碎したゴミを資源別に仕分けた後、A-Iロボットを開発販売する。電化製品を破碎した後の工程で、ロボットが破片をつかんで鉄や銅、アルミニウムなどの素材ごとに選別する。A-Iは国内企業と共同で開発した。

ヒートの目視不要

選別には磁石を使う方法もあるものの、異なる素材が絡まつた破片は難しいなどの制約がある。最後は熟練作業員の目視で代替できるようになり、年間数台の受注を目指す。

近畿工業の和田知樹社長はスマートフォンや電気自動車(EV)市場の作業を4人で2時間程度

冬場でも30度近くなる。

長時間の作業は困難で、導入前は1日7時間ほど

の作業を4人で2時間程度

の作業員は原則パート

A-I選別の導入によ

り、作業員の担当はコン

ベヤーに電池を流す工程

のみとなつた。補助金を

目標に掲げる。

近畿工業の和田知樹社長はスマートフォンや電気自動車(EV)市場の作業を4人で2時間程度

の作業員は原則パート

A-I選別の導入によ

り、作業員の担当はコン

ベヤーに電池を流す工程

のみとなつた。補助金を

目標